



千葉県立八千代高等学校 同窓会会報

令和4年3月号

令和4年3月8日発行

発行：八千代高校同窓会

総会員数：20,101名



同窓会HP QR



体操服デザインが一新されました！

我が校は、昭和41年4月1日に千葉県立八千代高等学校として独立しました。その際に決められたスクールカラーは、オリーブの色を基調としたグリーンであり、校旗の地色にも使用されるとともに、以来、体操服にもこの色が採用されています。

今年度、体操服のデザインが新しくなりました。当然のことながらグリーンはそのままに、胸にYachiyo.H.Sの文字とオレンジの校章をエンブレムとして付けるとともに、腕と体側のラインに変化を加えました。体育の授業はもちろん、球技大会、体育祭等の学校行事では体操服に着替えますが、真剣に取り組んでいる表情、心から楽しんでいる生徒たちの笑顔は、本当に素晴らしいものであると感じています。

(文：校長 金子 保敏)



同窓会からのお知らせ

◆クラス会に補助金

- ・補助金額 1万円（1開催）
 - ・補助金交付期限 卒業後5年まで（但し、1年1回）
 - ・申請方法：申請書類をHPからダウンロードし、記入の上提出願います。
- 詳細は八千代高校同窓会担当職員までお問い合わせください。

◆令和4年度総会開催

同窓会総会を下記のとおり開催いたしますので、皆様のご出席をお待ちしています。

- ・期日 令和4年4月16日（土）
- ・時間 午後1時から
- ・場所 八千代高校八千代寮

*新型コロナウイルス対策で中止や変更となる場合があります。
出席の際にはHPで確認をお願いします。

◆役員紹介

会長	後藤 真 (S54年卒)
副会長	水島 真一郎 (S61年卒)
"	金子 保敏 (校長)
書記	月村 路子 (H14年卒)
"	三浦 祐輝 (H20年卒)
会計	嶋崎 雄斗 (H14年卒)
"	安部 文 (事務長)
監査	稲垣 雄一 (S48年卒)
"	丹治 行雄 (S48年卒)
顧問	桑原 妙子 (S43年卒)
"	立石 梅夫 (S48年卒)

HP <https://www.yachiko-dousoukai.com>

活躍する同窓生

同窓生には、スポーツ界、芸能界、実業界などで活躍している人がたくさんいます。今回は東京オリンピック2020で活躍した同窓生を紹介します。

「克己心」を心の軸に生きる」

なでしこジャパン（日本女子サッカー代表）コーチ
フロリダ州立大学サッカーチームコーチ

今泉 守正（昭和54年体育科卒）



東京オリンピック2020
カナダ代表選手と札幌ドームにて



全米大学チャンピオン フロリダ州立大学
(後列右)



フロリダ州立大学のロゴマーク

1979年3月卒業、2000年3月再卒業。2回とも恩師青木克己先生に見送られました。勉強とサッカーに明け暮れた高校生活。「文武両道」をいかに具現化していくかを学んだ教師生活。ともに私のメンターである青木先生の教えを心に刻み込みました。

「八千代を全国トップクラスの高校に！」90年代ともに体育科教諭として励んだ同僚、高木先生、中獄先生と常に話していた言葉です。その和は、全職員に広がり、教育理念である「自主自律の精神を養う。豊かな人間性を育てる。国際的視野に立ち、個性・創造性を発揮できる資質を育てる」ことを全職員で取り組みました。1999年、青木克己先生が校長として赴任しました。その年に岩手インターハイにおいて優勝旗を届けることができました。生徒、保護者、職員、皆様のお陰と感謝しています。そして、これは八千代高校で預かった大切な生徒が卒業するときに、八千代高校の門をくぐって良かったと本人、保護者の皆様に言っていただけるように、3年間尽くすことを繰り返しました。まさに「大切な生徒一人ひとりの成功が八千代高校の成功である」と。

還暦を過ぎた今も「克己心」を心の軸に、フロリダ州立大学でサッカーの指導を続けています。そこには、USA代表、カナダ代表、中国代表、ジャマイカ代表、ベネズエラ代表、ポルトガル代表、イングランド代表、アイルランド代表等など、世界のトップユースプレイヤーが集まっています。そして、八千代高校と同じように「文武両道」を具現化しています。カナダ代表の学生は、東京オリンピックのカナダ代表としてサッカー競技金メダルを獲得しました。さらに、NCAAより、サッカー競技の学業最優秀トップアスリートとして表彰されました。フロリダの地で、毎日学生一人ひとりの成功を送り届けることができるように、日々を送っています。「克己心」を持って。

略歴

- 1979年 千葉県立八千代高校卒業
- 1983年 筑波大学体育専門学群卒業
- 1988年 千葉県立八千代高校教諭
- 1999年 岩手インターハイ優勝
- 2001年 日本高校選抜監督
- 2003年 ユニバーシアード競技大会日本女子代表監督
- 2004年 U19・U17日本女子代表監督
- 2002年 日本女子代表コーチ
- 2011年 フロリダ州立大学サッカーチームコーチ
- 2021年 東京オリンピック日本女子代表コーチ



「東京オリンピック2020女子水球に出場して」

株式会社ブルボン 小出 未来（平成23年3月体育科卒）



東京オリンピック2020での勇姿

女子水球日本代表は他国のチームより小柄であり、体の大きさが常に有利な状況を生む水球というスポーツの中で、その差を埋めるべく日本独自のスピードを活かした戦略を立て、海外の強豪たちと戦ってきました。そんな中、私の専門ポジションはセンターフローターと呼ばれ、バスケットで言うポストのようなポジションで、海外選手に比べると小柄な日本人選手の中で、唯一激しいボディコンタクトを行うポジションになっています。

試合の結果としては目標としていた打倒中国もかなわず、一回戦敗退という結果に終わってしまいましたが、個人として初出場・初得点の名誉は、今まで継続して水球に打ち込んでくることができた結果と、支えて下さった皆様のおかげだと思っています。

オリンピックは、幼少期に自分が「オリンピック」という言葉の重みを知らない頃に掲げた夢の舞台でした。その夢の舞台に立ち、今私が思いかえすことは、八千代高校時代の恩師、岩瀬先生の言葉である「やめるのは簡単。でも、続けることに大きな意味がある」でした。

その言葉は深く私の中に根付いていて、自分が何かに取り組む時の姿勢として、常に私の支えとなってきました。それは水球女子日本代表として、オリンピックに29歳で初出場という結果にも大きな影響を与えて下さいました。また、八千代高校で得た経験や知識は、卒業してからも選手生活を送る私の力となり、ここまで来ることができました。八千代高校を卒業できたことは、私にとってかけがえのない経験だったと言えます。

今後、私はイタリアでチームと契約を結び、6ヶ月間の海外リーグへの挑戦を予定しています。海外は選手層も厚く、毎週リーグの試合が行われるため、経験を多く積むことができます。契約チームの戦績はもちろん、今後は自分が海外で評価を受けることで日本人選手への認識を高め、より多くの日本人選手が海外チームと契約を結び経験を積めるような環境を作っていきたいと思っています。29歳という年齢になり、後をゆく若い世代の選手たちにより良い環境を残していくことも、今後の私の課題となってくると感じています。

最後に、現役八千代高校のみなさんへ。八千代高校での生活はいかがですか？私は八千代高校で学び経験した全てのことが、今の自分を作っていると断言できるほど八千代高校での勉強は実用性の多いものだったと感じています。文武両道、それは一見相反するものを同様に鍛えていこうと唱えているようですが、全ての物事は1人の人間の豊かさを作ることに繋がっていると、私は感じています。一人一人の目標を達成するために文武両道を掲げ、日々精進し、誇りを持って人生を謳歌していただきたいと思っています。そんなみなさんの道行を心から応援します。

略歴

- 2011年 八千代高校卒業
- 2015年 新潟産業大学卒業
株式会社ブルボン 入社
- 2015年～2016年 イタリアセリエA Cosenza nuoto 所属 最終順位6位
- 2016年 日本選手権水泳競技大会 水球競技 第3位
- 2016年～2017年 イタリアセリエA Pescara pallanuoto 所属 最終順位9位
- 2017年 ワールドリーグ アジアオセアニアラウンド・アメリカ
日本代表 4位
- 2019年 世界水泳選手権2019水球 日本代表 13位
- 2021年 東京2020夏季オリンピック出場 9位





栄光の記録

2021年度に大会に出場した部活動などを紹介します。

男子バスケットボール部 第75回関東大会第3位！

顧問 藤橋 洋輔、紙谷 建吾、藤代 浩司

令和3年6月5、6日に行われた第75回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会に千葉県代表として出場し「第3位」となりました。関東大会という舞台上で勝ち上がったことは選手にとって大きな自信となる大会でした。

コロナ禍で活動が制限され、新人戦が中止となるなど悔しい思いを抱えながら活動していました。そんな中で今年度初の公式戦となった県予選会を勝ち上がり、関東大会に出場したことはチームにとって大きな財産となりました。また、他県の強豪校のプレーやコート外での行動を肌で感じる事ができ、バスケットボールを通じて人間性を高める上でも良い刺激となり、チームに必要なことを再認識させてくれました。この経験を活かして更なる成長を遂げられるよう日々練習に励み、全国にオレンジ旋風を巻き起こしたいと思います。今後とも応援よろしくお願い致します。

最後に、このような状況下でも快くサポートして下さった保護者様、応援して下さった学校関係者様、練習の成果を発揮する場を与えてくれた大会関係者様に御礼申し上げます。ありがとうございました。



陸上競技部 関東大会で5種目入賞・4種目でインターハイ出場！

顧問 松本 健、小椋 行平、佐藤 史子

令和3年6月、神奈川県等々力競技場にて開催された関東高等学校陸上競技大会にて5種目の入賞を果たし、4種目(女子200m、七種競技、4×100mR、男子110mH)で全国高等学校総合体育大会(インターハイ)の出場が決定しました。3年連続関東大会で敗退し、昨年は新型コロナウイルス感染拡大による大会中止で、今年にかけける思いは特に強く、ようやく掴むことのできた悲願の出場権でした。陸上競技部のインターハイ出場は平成23年以來10年ぶり。女子4×100mRについては昭和62年以來34年ぶりの出場になり、OBOGの方からもたくさんの激励をいただきました。

インターハイの会場は、福井県営陸上競技場(通称:9.98スタジアム)でした。男子110mH、女子200m、女子400mRでは準決勝まで進出し、特に男子110mHでは0.001秒差、女子4×100mRでは0.02秒差という僅差で決勝進出が

できず、ぎりぎりの勝負の厳しさを痛感しました。

しかし、インターハイという全国の舞台上で堂々と競い合うことが出来た経験は、チームとしても大きな自信になりました。今後も毎年インターハイに出場できるように顧問、部員一丸となり努力していきたいです。



女子柔道部 インターハイ(団体) ベスト16！

顧問 熊野 耕二、川元 一洋、石渡 聖子

【4月】1年生8名が入部、部員16名で新年度スタート。
【5月】関東大会県予選(団体戦)優勝。春の全国大会52kg級で5位入賞した主将の濱岡あかりがチームを牽引。
【6月】関東大会(団体戦)5位入賞。ベスト8進出校の中で公立校は本校のみ。インターハイ県予選(団体戦)では、先鋒で起用した河野紫吏が貴重な一点をもぎ取りチームを優勝に導きました。個人戦においても4名(濱岡あかり、河野紫吏、葛西桃香、戸山このみ)が優勝し全国大会出場権を獲得。
【7月】20歳以下関東ジュニア大会で2年生の葛西桃香が3位入賞。実績のある大学生3名に勝利する快進撃。
【8月】長野インターハイ。千葉県代表として挑んだ団体戦では、無失点で1、2回戦を突破しベスト16進出。ベスト8をかけた静岡県代表校との対戦では、1対1の代表決定戦にもつれ込む大接戦を演じましたが、僅差で敗れる結果でした。個人戦では、戸山このみが初の全国大会で2勝しベスト16。3年間の頑張りが凝縮された試合内容でした。

【11月】新チームで臨んだ県新人大会。個人戦において優勝者3名、準優勝者4名、3位3名の活躍が見られました。優勝した3名(八馬ひより、森山美優、佐藤心南)は3月に日本武道館で行われる全国大会に出場。

毎年メンバーが入れ替わる高校部活動ですが、部員たちの柔道に懸ける熱い思いは毎年変わらず、伝統は脈々と受け継がれています。今後も日々の積み重ねを大切にしながら全国の頂点を目指し精進していきます。





吹奏楽部

東日本予選で金賞、全国大会で優秀賞・審査員特別賞！

私たち吹奏楽部は、11月27日に横須賀芸術劇場で行われた「第6回全国ポピュラーステージ吹奏楽コンクール全国大会」に出場しました。私達はこの大会に毎年参加していましたが、今年は例年とは異なり、東日本・西日本に分かれた予選大会の場が設けられました。これによって、より一層大会への緊張感が高まり、練習に力が入り、演奏の質の向上に繋がりました。

東日本大会では『宝島』『Deep Purple Medley』の2曲を演奏し、金賞、そして審査員特別賞を頂くことができ、全国大会出場校に選ばれました。この日から約2ヶ月間、全国大会でレベルアップした演奏ができるよう、懸命に練習しました。

全国大会当日、私達は緊張すると同時に、横須賀芸術劇場という素晴らしい舞台で演奏できることの有難さや、久々にお客さんを前にして演奏する嬉しさを感じていました。本番前のリハーサルでは、指揮者の先生がリラックスして本番に挑めるようにして下さい、本番では部員全員が納得のいく演奏をすることができました。結果は力及ばず、上

顧問 川口 みすず、長島 優子、関 直一、大久保 紗織
位3位には選ばれませんでした。優秀賞、そして少人数でも音がしっかり響いていた事が評価され、再び審査員特別賞を頂くことができました。

この大会に出場した事で審査員の方々から頂いた言葉や他団体の演奏に触発されました。また、この大会を通して改めて感じた、大会を主催して下さい方や日頃から応援して下さいの保護者の方々、OB・OGの方々への感謝を今後の吹奏楽部の演奏、活動にいかしていきます。これからも八千代高校吹奏楽部の応援をよろしくお願い致します！



鼓 組

「2021わかやま総文」出場！

今年の8月、夏の暑さも厳しい中、八千代高校和太鼓芸能集団鼓組は和歌山県で実施された全国高等学校総合文化祭に参加してまいりました。例年であれば、公式大会にも慣れ、鼓組最大のイベントである夜祭を終えた3年生が、夜祭の勢いで素晴らしい演奏を披露してくれるのですが、今年度は34代目である2年生を中心としたメンバーでの参加となりました。

34代目にとって最初の公式大会が全国大会ということで、急ピッチで準備を進め、生徒達も焦りつつも張り切って練習をしてまいりました。新型コロナウイルスの影響でホール練習も満足にできず、活動も制限されてしまう中での準備でしたが、顧問一同から見ても短期間での上達が実感できる、充実した日々を過ごしてくれたと思います。

当日は天気にも恵まれ、生徒達も不慣れな環境の中で精一杯の演奏をしてくれました。34代目、そして今年度入部し

顧問 野中 伸康、丸田 陽子、平野 孝明
た35代目にとってスタートとなる記念すべき大会。生徒達の胸にもしっかりと刻まれたことだろうと信じます。

今後も八千代高等学校和太鼓芸能集団鼓組は、様々なイベント、大会で演奏させていただきますので、是非一度、エネルギーに満ちた鼓組の演奏を聴きにきていただければ嬉しく思います。放課後に中庭で響いていた太鼓の音を思いだし、ご自身の高校時代を懐かしんでみてはいかがでしょうか。



山岳部

「総体県予選総合5位！10年ぶり入賞」

令和3年5月7・8日南房総市の烏場山(265m)で総体県予選が行われました。3年生の吉岡俊宏をキャプテンとして西島柊斗、豊澤汐凧、登坂豪の4人のチームで大会に臨み、総合第五位の成績を収めました。1人15kgのザックを背負って先ずは登頂までの時間を競います。競技ではそれ以外に装備品が完全か、地図が正確に読み取れるか、テントを適切に設営することが出来るかなど、8つの項目が審査されます。

日頃は校舎周辺や八勝園バス停より南側の傾斜地を利用した歩荷(ぼっか)のトレーニングをはじめ、国道16号線と併走して「道の駅やちよ」までの往復12kmに及ぶ長距離走を取り入れたりして体力作りに励んでいます。

総合成績は1位の県千葉が204点、2位の千葉東が203点、3位の幕張総合が192点、4位の成東が183点、5位の八千代が179点、6位の千葉工業159点でした。

顧問 岡田 佳也、堀江 広之
千葉県登山競技は今年度千葉東の女子がインターハイで優勝するなど、全国的にもレベルが高く、その中でも八千代は平成23年度に総体で第3位という実績を有しています。その後は良くて8位止まりで、今年度は10年ぶりの入賞の快挙でした。関東大会は10月29日～31日箱根で計画され、出場権を得て大会へ向けた更なる準備を積み重ねて来ましたが、生憎感染症拡大防止のため、1ヶ月前に中止となってしまいました。

(歩荷訓練の様子)



青春群像

現在、八千代高校では、運動系16部、文系12部、理系3部が活動を行っています。今回は4つの部活動を紹介します。

書道部

顧問 鹿野 美彦



書道部は現在、3年生2名、2年生3名、1年生6名で活動しています。主な年間の活動は、4月の新入生歓迎展、9月の八千代祭文化の部での書作展・書道パフォーマンス、11月の県総合文化祭書道作品展、12月の全日本高等学校書道コンクールへの出品・発表です。毎年8月には2泊3日の合宿も行っていましたが、コロナ禍のため昨年度・今年度と実施できませんでした。生徒達はそのような状況に中でも、ひたすら紙に向かい筆を走らせる日々を送っています。

文化祭に向け部員達は、夏休み中も作品制作や茹だるような暑さのトレーニング場でのパフォーマンス練習を繰り返し、作品発表に備えてきました。残念ながら、今年度の文化祭も校内公開のみの実施で保護者の皆様や卒業生に直接見ていただくことができませんでした。しかし、作品が思うように書けずたくさん悩んだことや、卒業生が差し入れを持って激励に来てくれたことは、部員全員にとって高校部活動の良い思い出になったことと思います。

パフォーマンスの発表は今年で10年連続です。先輩から後輩へこれからも良い伝統を受け継ぎ、八千代高校書道部の活動を更に盛り上げていけるよう頑張っていきたいと思っています。

演劇部

顧問 柄 俊雄、星野 修一、吉田 成穂



様に届けることができるよう日々精進しています。今まで人が全く入らなかった文化祭も、ここ数年はいつも満員です。同窓生の皆様もどうか八千代の芝居を観に来てください。お待ちしております！

女子ハンドボール部

顧問 玉屋 裕基、小林 大介、新谷 睦



ハンドボール部女子は3年生7名、2年生8名、1年生11名の総勢26名で全国大会出場を目標に毎日の練習に励んでいます。コロナ禍で思うようにできない時期がありましたが、第67回関東高等学校ハンドボール選手権大会に10年連続15回目の出場を果たし、最後の大会であるインターハイ県予選でも、決勝まで進み2位となりました。全国出場は果たせませんでしたが、3年生のメンバーがそれぞれの立場でチームを牽引し、自身の最高のプレーを出そうとする姿は、後輩たちに多くのものを残してくれたと思います。

新チームでは、1年生大会で優勝。またシード校4校による選抜大会予備選考会において県内で4年間負無しの昭和学院高校に競り勝ち、優勝することができました。千葉県の歴史にまたひとつ八千代高校の名を残すことができ、選手たちもこれまでにない喜びと自信を得ることができました。

2度目の全国出場にむけ、普段の環境や、支えて下さるすべての方々への感謝の気持ちを決して忘れることなく、日々精進していきたいと思っています。

男子バレーボール部

顧問 小出 秀樹、内田 信孝



男子バレーボール部は、3年生選手13名マネージャー1名、2年生選手7名マネージャー2名、1年生選手13名マネージャー2名で活動しています。『文武両道を極める』をモットーに、自分に厳しく、チームで楽しく、自ら考えて成長できるよう常に高い意識を持ってバレーボールに取り組んでいます。

本来であれば質の高い練習を積んで、他県の上位チームや大学生との練習試合を重ね、関東大会、インターハイそして春の高校バレーを目指してきたところですが、コロナ禍の中、制限が多く、昨年今年と思うような活動ができず、関東大会県予選、総体ともに県ベスト16と本来の力を発揮することができませんでした。この悔しさをバネに部員一同、一致団結して戦っていきます。合言葉は『前後際断』(過去にとらわれず未来を不安に思うことなく今に集中する)『八千代の逆襲!』他の上位チームが『あっ!』と驚くバレーボールを展開していきます。

これからも全国制覇目指して頑張っていきますので、男子バレーボール部をよろしく願いいたします。

光よ若き花に降れ

新しく八千代高校に赴任した先生や八千代高校OBOGなどを紹介します。

「八千代高校に赴任して」



教頭 進藤 周介

八千代高校に赴任して一番に感じたことは、「文武両道」を目指し、何事にも一生懸命に取り組む姿勢に高校生としての見本の学校であるということでした。赴任した直後は、2ヶ月の休校期間があり、生徒の様子を目の当たりにできたのは6月からでした。休校が開けて分散登校となり、少しずつ平常を取り戻していく中、朝早く登校し勉強に励む生徒を見かけるようになりました。

学校行事では、新型コロナウイルス感染症拡大防止を念頭に対策を練り、生徒と先生方が協力し、文化祭・体育祭を成功させ、部活動では、制限のある中時間を有効に使って結果を残すことができました。家政科では休校により授業時間の確保が難しい中、生徒の熱意と先生方の指導により完成させた地域と連携して取り組んでいる「やちパン」プロジェクト、ライブ配信もおこなったファッションショーなど実施しました。いつも通りではない中で、生徒たちが限られた中で精一杯努力し、達成することができました。コロナに負けずに成し遂げたことは、八千代高校生の真の力が発揮された賜と思います。

今年度は、少しずつ通常の学校生活が戻って来る中、各部活動においては昨年度開催されなかった上位大会が開催され、関東大会、全国大会出場を果たす部活動も多数あり、コロナ禍の中でも活躍する八千代高校生の姿に感動を覚えるとともに、何事にも真摯に取り組み、ひたむきに努力する姿から、無限の可能性を感じました。最後になりますが、八千代高校のますますの発展を願うとともに、同窓生の皆様には、引き続き本校への惜しみない御支援・御協力をよろしくお願い申し上げます。

「同窓会会長に就任して」



同窓会会長 後藤 真

立石前会長に替り、新任会長になりました後藤です。早や高校卒業後40年が過ぎた今、母校に関わり、「お役立ち」が出来ることを嬉しく思います。コロナ禍にもめげず、八千代高校生徒の皆様のご活躍を同窓会会報で紹介できることを光栄に感じます。また、在校時、勝田台居住にて、私・妹・弟と八千代高校にお世話になり、大変感謝しております。

ところで、私の高校時の思い出は男子柔道部で、きつい稽古しかありません。メンバーは高校から始めたばかりのほぼ初心者で決してエリートでなく、皆、体が小さかったため、当時の顧問の大野敬三先生の指導は週3回トレーニングに柔道の稽古は週2回でした。1年後、その成果で上級生との混合チームで関東大会に出場できました。(結果は1回戦 東海大相模に敗退)私の個人戦では船橋・習志野・八千代地区の軽量級の決勝で千葉県チャンピオンの習志野高校の選手に一本負け。試合後、大野先生から「左内股の受けの練習をやっておけば良かったな」の一言。“後悔先に立たず”で高校での柔道は終わりました。現在、不思議な縁で船橋周辺の柔道経験者が集まって「船橋中央柔道クラブ」で子供たちに柔道を教えています。

この同窓会会報では体育会系・文科系の部活動にて全国レベルで活躍された記事、家政科のやちパンプロジェクトなどの素晴らしい成果を校内だけでなく、同窓会の皆さまにお届けしたいと思えます。

終わりに同窓会を通して八千代高校の発展を支援していきますので、宜しく願いいたします。

(昭和54年3月普通科卒)

八千高ニュース

昨年、八千代高校の出来事や話題になったことなどをお届けします。

やちパンプロジェクト

やちパンプロジェクトは、八千代市内のパン屋さん、八千代高校、八千代市・八千代商工会議所が協力して商品を開発する八千代産学官協同ネットワーク事業の取り組みです。生徒達が入学時からとても楽しみにしているイベントで3学年の家政科の生徒がプロジェクトに取り組みます。

第5回にあたる今年は6店舗が参加しており、地元野菜や果物、特産品などを使ったパンを生徒が考案し、14種類が商品化されました。11月下旬から2週間、各店舗で期間限定販売され、たくさんの方々に食べていただくことができました。

また、第5回ということで、パン屋さんに協力していただき文化祭の時期に、第1～4回の復刻販売をすることもできました。県庁での先行販売や校内販売で生徒が実際に販売することもできて充実した取り組みになりました。

(文：廣瀬 美和)



オリ・パラホストタウン感謝状受賞

本校家政科3年生は、県オリンピック・パラリンピック推進局の依頼を受け、千葉県で事前キャンプを実施する海外の選手団に、歓迎や応援の気持ちを伝えるため、県マスコットキャラクターである「チーバくん」のぬいぐるみを活用した記念品を企画・制作しました。

3A全員でコンセプトを考え、日本の伝統的な文化も伝えられたらとの思いから「祭り」をイメージし、チーバくんには法被を着せ、頭飾りやうちわ、メッセージカードを添えて一つひとつ丁寧に手作りで仕上げました。制作した「チーバくん」は、県をとおしてオランダ王国の選手団に贈呈され、選手のSNSで披露されるなど大好評でした。

この取組は、国のホストタウン活動として認められ、内閣官房オリンピック・パラリンピック局から感謝状が授与されるとともに、オランダ大使館からも感謝状を頂き、八千代高校家政科を日本から世界にPRができました。

(文：廣瀬 美和)



高校大学連携授業の実施

今年度より本校生徒が大学の「知」にふれ、将来、大学で学ぶ際により高い目的意識をもって学習に取り組むことをねらいとして、高大連携事業を始めました。今年度は、千葉大学、東邦大学、順天堂大学および和洋女子大学の協力を得て、12月20日(月)に本校1年生の生徒が希望により4グループに分かれ、それぞれの大学による高大連携授業に参加しました。

千葉大学の教授を本校にお招きし、「学際的な学びと留学」という題でご講演をいただきました。東邦大学の習志野キャンパスでは、理学・薬学に関する模擬授業を実施していただきました。和洋女子大学では、「家政学を学ぶとは」という題でご講演をいただきました。順天堂大学のさくらキャンパスでは、島崎先生ならびに山中先生にご講義をいただきました。生徒の感想では「様々な学問にふれてみたいと思った」など、これからの学びに対する意欲が見受けられました。

今後も、生徒の学ぶ意欲を刺激できるよう、様々な事業を展開してまいります。

(文：矢橋 晃)



体育科キャンプ実習

日常の喧騒から離れた非日常の2泊3日、山梨県の大自然の中で51期生40名は、八千代高校体育科生として初めての実習を経験しました。新型コロナウイルス蔓延の影響で、予定していた日程から1ヶ月遅れでの実習実施となりました。実施の可否がわからない中、「一味同心」というテーマを掲げて準備を続けた40名にとって、実習が無事に実施できたことは大きな喜びと、実習実施のために尽力いただいた多くの方への感謝を感じられる貴重な経験の機会となりました。

これ以上ないと言っていいほどの晴天に恵まれた3日間、風や森、動物の鳴き声、静寂な夜、夜の暗さと綺麗な星空。実習でしか体験できない環境下で、相互理解や協力、貢献、課題解決の場を経験し、八千代高校生として、そして体育科51期生としての責任と自覚を深めることができました。

キャンプファイヤーで誓った友情・信頼・協力・希望・夢を胸に、今後の変化と成長のきっかけとなる時間でした。

(文：1H担任 岡本 一洋)



編集後記

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この同窓会会報は、同窓生と八千代高校を結ぶ架け橋です。母校がどんな様子か、後輩たちがどんなに頑張っているか、先輩たちがどんな活躍をしているか、などをお届けします。

一昨年から続くコロナ禍の中、東京オリンピック2020が終了し、少しずつ日常が戻ってきました。学び方・働き方も

ニューノーマルが普通になりつつあります。令和4年度が皆様方にとって更に躍進の年となりますように祈念いたします。

末筆ながら、お忙しい中、原稿を寄稿して下さった方には深く感謝申し上げます。(編集長 水島 真一郎)

発行人：千葉県立八千代高等学校同窓会 会長 後藤 真
編集：同窓会報編集委員会
八千代市勝田台南1-1-1 (八千代高校内) 047-484-2551